

木曾谷森林計画区

第五次国有林野施業実施計画書

第一次変更計画

(変更分のみ)

[変更年月]

第一次変更 平成30年3月

計画期間
自 平成29年 4月 1日
至 平成34年 3月31日

林野庁 中部森林管理局

目 次

I 変更事由	1
II 変更事項	
5 保護林の名称及び区域	2
イ 生物群集保護林	
ウ 希少個体群保護林	
8 その他必要な事項	
(2) フィールドの提供	7
ア ふれあいの森	
ウ 多様な活動の森	

木曾谷森林計画区 第五次国有林野施業実施計画の第一次変更について

国有林野管理経営規程第14条第2項に基づき国有林野施業実施計画の一部を次のように変更する。
なお、この変更は、平成30年4月1日から効力を生ずるものとする。

I 変更事由

1 保護林の名称及び区域について

「保護林制度の改正について」（平成27年9月28日付け27林国経第49号林野庁長官通知）に基づき、隣接する木曾川森林計画区の樹立に伴い同一保護林である箇所を統一し、保護林の区分を変更する。

2 フィールドの提供について

「ふれあいの森における森林整備等の活動に関する協定」により新たに締結したため変更する。
「多様な活動の森における保護・管理・利用に関する協定」により新たに締結したため変更する。

5 保護林の名称及び区域

ア 森林生態系保護地域

名称	新設 既設別	面積 (ha)	位置 (林小班)	特徴等	施業等
中央アル プス木曾 駒ヶ岳	既設	4,140.20 保存地区 1,812.61 保全利用地区 2,327.59	木曾 (729.36) 358-IIに・ほ・ハ 359-Iろ・は・イ・ロ 359-Iろ・イ 南木曾 (1,083.25) 1412は・に 1418ろ・に・ロ・ハ 木曾 (874.87) 358-IIい・は・イ・ロ 359-Iい、359-IIい 南木曾 (1,452.72) 1411ろ・に 1412い・ろ・イ・ロ 1418い・は・ハ・イ	日本海型気候から太平洋型気候への推移帯である本州中央部に位置し、中央アルプスにおける原生的で多様な天然林を有している。自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、新しい時代における森林に関する技術の発展、学術研究等に資するため、この原生的な森林の生態系を保護する。	原則として、人為を加えずに自然の推移に委ねる。 外接する森林においては、当該保護林の急激な環境の変化を避けるため、原則として皆伐等による施業は行わないものとし、複層伐及び択伐を中心とした育成複層林施業又は天然生林施業を行う。
面積計		4,140.20			

イ 生物群集保護林

名称	新設 既設別	面積 (ha)	位置 (林小班)	特徴等	施業等
木曾	既設	9,008.81 保存地区 2,803.47 木曾谷：2,803.47 木曾川：463.06 計 3,266.53	木曾 (2,023.09) 101~118 125ろ・ほ・イ 126は・ち・イ 2145~2154 2156い・に	天然のヒノキ、サワラ等を含む温帯性針葉樹林は、世界的に希少といわれている。 現存する温帯性針葉樹林をまとまりと連続性をもって、遺伝資源及び森林生態系を保存するとともに、人工林から天然林	保存地区については原則として人為を加えずに自然の推移に委ねる。 保全利用地区については将来的に天然林への誘導を図るため、細部については「木曾生

名称	新設 既設別	面積 (ha)	位置 (林小班)	特徴等	施業等
木曽			2157~2179 2182~2194、2198 2199い~は、2200い~は 2201、2202、2221い~ に・へ・イ、2222い・ろ・れ 2223り・れ、2224い・た 2225ほ・ち 南木曽 (780.38) 1110~1112 1113い~ほ 1114~1123 1133~1143、1162い 1163、1164 1165ろ・と、1166ろ 1167ろ、1168は 木曽 (3,926.10)	への誘導を通じて温帯性 針葉樹林の復元を図るた め、木曽地方（長野県内 の木曽谷及び岐阜県内の 裏木曽（加子母裏木曽、 付知裏木曽））の国有林 を生物群集保護林に設定 する。	物群集保護林復元 計画」に基づき適 切に行う。
		保全利用地区 6,205.34			
		木曽谷 : 6,205.34 木曽川 : 920.32 計 7,125.66	122い・イ、123 124ろ~へ、125い 126い・ろ、127~130 131い~は、132い 155~197 2117~2144、2155 2156ろ・は、2180 2181、2195~2197 2199に~り 2200に・ほ 2203~2220、2221ほ 2222は~た・そ 2223い~ち・ぬ~た・そ~ね 2224ろ~よ・れ 2225い~に・へ・と・り~れ 2226~2246		

名称	新設 既設別	面積 (ha)	位置 (林小班)	特徴等	施業等
木曾			南木曾 (2, 279. 24) 1093い・ろ・に～へ 1094、1095 1096ろ～ち、1097い 1098～1100 1101い・ろ・に・ほ・イ 1102い～に・へ・と・ロ 1103ろ～へ 1104～1109、1113へ 1124～1129 1130い・は～ぬ、1131 1132、1144～1161 1162ろ～へ 1165い・は～へ 1166い・は・に 1167い・は～と 1168い・ろ・に～ぬ 1169～1203 1204い・ろ・に～と・ロ 1205い～に		
南木曾岳	既設	保存地区 672. 87	南木曾 424～435 513ろ、514い・は、515 516い・ろ・へ 517い・は・ほ 518、519い、520い 521、522い・は 523、524い	南木曾岳山頂部周辺は木曾ヒノキ、コウヤマキ、クロベ等の天然木が生育し、林床にはキョウマルシャクナゲ等が生育するなど、深層風化花崗岩からなる急峻な山岳地形とあいまって木曾谷南部の典型的な生物群集を有する森林の保護・管理を図る。	原則として、人為を加えずに自然の推移に委ねる。ただし、人工林については、育成複層林施業等を行うことができるものとして、将来的には天然林への移行を図る。また、外接する森林においては、当該保護林の急激な環境の変化を避けるため、原則として皆伐等による施業は行わないもの

名称	新設 既設別	面積 (ha)	位置 (林小班)	特徴等	施業等				
御岳	既設	保存地区 1,159.29	木曾 832イ・ロ 863イ～ヤ 2330イ 2452イ・ロ 2453イ・チ 2688イ 2697イ 2760イ	御嶽山の山頂周辺は活火山特有の地形、地質であり、これに地域固有の植生等が分布していることから、これらを有する森林の保護・管理を図る。	とし、複層伐及び択伐を中心とした育成複層林施業又は天然生林施業を行う。				
		<table border="1"> <tr> <td>木曾谷 : 1,159.29</td> </tr> <tr> <td>飛驒川 : 1,539.99</td> </tr> <tr> <td>宮・庄川 : 394.76</td> </tr> <tr> <td>計 3,094.04</td> </tr> </table>	木曾谷 : 1,159.29	飛驒川 : 1,539.99	宮・庄川 : 394.76	計 3,094.04			
木曾谷 : 1,159.29									
飛驒川 : 1,539.99									
宮・庄川 : 394.76									
計 3,094.04									
賤母	新設	保存地区 30.29	南木曾 702い、707ろ	木曾ヒノキ、モミ、ツガ、コウヤマキ等の天然林であるが太平洋側の温帯林と暖帯林の移行層として、木曾谷の多くの森林と異なる特異な植生を形成していることから、これらの個体群の保護・管理を図る。					
		<table border="1"> <tr> <td>木曾谷 : 30.29</td> </tr> <tr> <td>木曾川 : 220.73</td> </tr> <tr> <td>計 251.02</td> </tr> </table>	木曾谷 : 30.29	木曾川 : 220.73	計 251.02				
木曾谷 : 30.29									
木曾川 : 220.73									
計 251.02									
面積計		10,871.26							

ウ 希少個体群保護林

名称	新設 既設別	面積 (ha)	位置 (林小班)	特徴等	施業等
鉢盛山 コメツガ 等遺伝資源	既設	75.07	木曾 1133ち、1136ほ	鉢盛山近辺のコメツガ、 トウヒ、ダケカンバ等から 構成される天然林の保護・ 管理を図る。	原則として、人 為を加えずに自然 の推移に委ねることとするが、当該 個体群の保護・増 殖に必要な森林施 業は可能とする。 外接する森林に おいては、当該保 護林の急激な環境 の変化を避けるた め、原則として皆 伐等による施業は 行わないものと し、複層伐及び択 伐を中心とした育 成複層林施業又は 天然生林施業を行 う。
寝覚の床 サワラ 遺伝資源	既設	57.25	木曾 21い・ろ、22い・ろ	サワラ、木曾ヒノキ、コ メツガ等から構成される天 然林の保護・管理を図る。	
皆 沢 アカマツ 等遺伝資源	既設	9.62	木曾 585い・ろ・に~へ	形質の良いアカマツ、サ ワラ、ウラジロモミ等から 構成される天然林の保護・ 管理を図る。	
新 高 コメツガ 等遺伝資源	既設	51.13	木曾 818い	コメツガ、シラビソ、オ オシラビソの成熟相を呈 し、チョウセンゴヨウ、ク ロベ等の混交する天然林の 保護・管理を図る。	
瀬戸川 ヒノキ等	既設	2.24	木曾 2025ほ	阿寺山系の木曾ヒノキを 主体とし、コウヤマキ、サ ワラ、広葉樹等から構成さ れる原生林に近い天然林で あり、学術的に価値が高い ことから、この個体群の保 護・管理を図る。	
台ヶ峰 サワラ	既設	7.20	木曾 261ろ・ち・り	サワラの占有率が高く、 木曾谷でも特に優れた典型 的なサワラ天然林となっ ていることからこの個体群の 保護・管理を図る。	
油木沢 ヒノキ	既設	48.80	木曾 866い、867い、872い 873い	人為が加わって成林した典 型的な木曾ヒノキの個体群 の保護・管理を図る。	
面積計		251.31			

8 その他必要な事項

(2) フィールドの提供

ア ふれあいの森

名 称	面積(ha)	位 置	設 定 の 目 的 等
大樹の森・赤沢 (平成29年度設定)	3.28	木曾 78は	<ul style="list-style-type: none"> ・協定相手方：「NPO法人地球緑化センター」 ・協定期間：平成33年度末まで ・目 的：森林整備作業、森林環境教育等に取り組むNPO・ボランティア団体等の支援及び活動拠点として整備する。

イ 木の文化を支える森

名 称	面積(ha)	位 置	設 定 の 目 的 等
ひわだ 檜皮の森 (平成14年度設定)	71.36	南木曾 702は 703い 706は 707い	<ul style="list-style-type: none"> ・協定相手方：「公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会」 ・協定期間：平成33年度末まで (平成28年度末更新) ・目 的：歴史的建造物の屋根葺き材料としての檜皮を供給するための森林整備・保全活動を行う。
南木曾伝統工芸の森 (平成18年度設定)	3.16	南木曾 609い	<ul style="list-style-type: none"> ・協定相手方：「南木曾伝統工芸の森育成協議会」 ・協定期間：平成33年度末まで (平成28年度末更新) ・目 的：南木曾町の伝統工芸品のロクロ細工等に充当する広葉樹を育成するための森林整備・保全活動を行う。

ウ 多様な活動の森

名 称	面積(ha)	位 置	設 定 の 目 的 等
城山史跡の森 (平成16年度設定)	77.90	木曾 722～726	<ul style="list-style-type: none"> ・協定相手方：「城山史跡の森倶楽部」 ・協定期間：平成33年度末まで (平成28年度末更新) ・目 的：自然再生、森林環境教育等に取り組むNPO・ボランティア団体等の支援及びその活動拠点として整備する。
郷土の森 (平成29年度設定)	80.81	木曾 1030いろ 1031い	<ul style="list-style-type: none"> ・協定相手方：「木祖村」 ・協定期間：平成33年度末まで ・目 的：遊歩道等の保全、整備活動、体験林業、自然観察等の森林保全活動を行う。